

# いわさき明子の議会報告



## 福祉の視点を生かし、子どもに支援の手を！

非正規雇用や生活保護世帯の増加で、6人に1人の子どもが貧困といわれ社会問題となっていますが、千葉市では平成25年度から「スクールソーシャルワーカー」が配置されています。社会福祉士等の資格を持つ人が福祉の視点を生かし、学校の現場から、家庭に必要な支援につなげられるようになりました。

教育委員会は「支援が必要な事案は増加しており、制度を周知し活用を図ること、改善した事案の分析と評価をすることが今後の課題」と回答。スクールソーシャルワーカーが介入することで改善できた事例を、もっと様々な立場の人が共有するべきです。

学校はもちろん、地域で活動する民生委員等にも事例を知らせること、家庭の事情で学校に行きづらくなってしまった子どもの状況を、1人でも多く改善できるよう、さらなる増員も要望しました。親以外にも自分を助けてくれる大人がいることを、子どもたちに伝えていきたいと思ひます。



一般質問する岩崎明子

## 18歳選挙権で、投票率は上がるのか？

4月12日の統一地方選挙の投票率は過去最低でした。20代30代の投票率は、30%に満たない危機的状況です。6月17日、参議院で公職選挙法の改正案が全会一致で可決され、18歳選挙権が実現しましたが、何も策を講じなければ投票率は低下の一途です。

選挙管理委員会は若年層への啓発について「今後、教育委員会と協力して高校生への出前選挙講座を行う」と回答。しかしそれでは遅すぎます。

これからは、小中学生からの主権者教育が必須です。たとえば給食のメニューを考えるなど、自分たちのことを自分たちで決める機会を増やすことや、中高生が実際の選挙に合わせた模擬投票を行うことを要望しました。また、親子で一緒に投票に行く習慣があれば、子どもは将来、選挙に行く大人になるはずで、ぜひ家族の大切なイベントとして、選挙を考えてほしいと思ひます。



## 岩崎明子初めての一般質問

5月初旬より選挙管理委員会・教育委員会と意見交換しながら、他市の状況などを調査し、質問をまとめました。当局から欲しい回答を引き出せるような質問の組み立ては今後の課題ですが、

もらった回答の「その後」を引き続き注視し、改善を促していきたいと思ひます。また、市民ネットワーク新人議員の松井佳代子・渡辺忍もそれぞれ一般質問で市の考えを問いました。

## 議会トピックス

- 動物公園の入園料及び駐車場使用料を改定  
休園日を水曜日に  
入園料：大人(高校生以上) 700円  
小学生及び中学生 無料  
年間パスポート大人(高校生以上) 2,500円  
駐車場使用料：普通自動車 700円  
大型自動車 2,800円
- 心身障がい者への医療費助成が現物給付方式に（一部負担金1回300円）
- 海浜病院の診療科目に小児外科を追加
- 中央立体駐車場が廃止
- 千葉市民会館、市民ギャラリーいなげ、千葉市文化センター、生涯学習センターの指定管理者を非公募に（市民ネットワークは反対しました）
- 加曽利貝塚博物館・郷土博物館が入館無料に
- 鎌取、亥鼻福祉作業所が民営化
- 千葉中央港の旅客船棧橋へアクセスする階段デッキを1億円で整備

### ～松井佳代子の一般質問から～

## 放射性廃棄物の最終処分場問題

議会の初日（6月8日）、3つの会派（自民、公明、未来民主ちば）が提出した「千葉市内の指定廃棄物処分場建設候補地選定について再協議を求める決議」案の採決が行なわれ、市民ネットワークも「排出自治体内での保管を行う」ことには賛同しかねますが、液状化現象への懸念や住宅密集地での住民への影響、風評被害、市民への情報公開等への言及があり、主旨には賛成しました。採択の結果、千葉市議会として国に再協議を求めていくことになりました。

市民ネットワークの一般質問に対し、市長からは「市民などの懸念を考慮するとともに市議会の決議を尊重し、国に再協議を求めており、今後も、責任ある対応に努めて参ります。」との答弁がありました。

後日環境省からは千葉県専用のコールセンターが7月1日から開設されることなどが伝えられました。03-6741-4583(平日9:30～18:15受付)

\* 指定廃棄物とは…東京電力福島原発事故により生じた汚染濃度の値8千～10万ベクトルの放射能廃棄物のこと。

\* 千葉市内の最終処分場候補地とは…特別措置法により、指定廃棄物は同一県内で処理するとされた。国は千葉県内1か所に集約することを方針とし、詳細な調査の候補地に、東京電力千葉火力発電所（中央区蘇我）を選定した。



### ～渡辺忍の一般質問から～

## 児童虐待防止について 「千葉市の妊娠SOSの相談窓口は？」

虐待された子どもの死亡事例をみると生後直後の死亡が大変多く、その多くは予期せぬ妊娠による虐待死で、妊娠期からの支援がととても大切です。

しかし、千葉市には予期せぬ妊娠に対する専門の相談窓口はありません。10代の妊娠、DVやレイプ被害を受けている等、SOSを求めている妊婦でもたどりつけるような相談窓口の受付方法としてメールも検討すること、相談窓口の周知を検討すること等、要望しました。

## 子どもの居場所について 「子どもたちが安心して自立して過ごせる地域となるために」

高学年ルームについて、市民から多くの不満・不安の声があり改善を求めました。

エアコンが無い場合に夏どう過ごすのか、図書室等へ移動して過ごすとの回答でしたが、指導員の話の伺うと移動は難しい状況もあるとのこと。今後、注視していく必要があります。又、年齢相応の過ごし方ができるよう運営要領策定も求めました。

厳密に管理するのではなく、社会に放り出すのではなく、徐々に地域で過ごす力をつける緩やかな見守りによる子どもの居場所の検討を要望しました。

